

小5

小6

中2

## 2学期生募集!

### 無料「お試し体験会」受付中

※先着5名様(特典:入校金免除)

1学期も頑張りました! アルファで一步一步アップ!  
自立型「個別指導」で成果が出ています!

桜井中学Aさん	1年学年末考査	▶	2年1学期中間考査	▶	2年1学期期末考査
5教科合計	308点	▶	376点	▶	356点
順位	50番	▶	33番	▶	32番

高志野中学Bさん	1年学年末考査	▶	2年1学期中間考査	▶	2年1学期期末考査
5教科合計	311点	▶	388点	▶	406点
順位	54番	▶	23番	▶	18番

鷹施中学Cさん	2年学年末考査	▶	3年1学期中間考査	▶	3年1学期期末考査
5教科合計	303点	▶	340点	▶	372点
順位	62番	▶	51番	▶	36番

大学入試が**激変**するってホント!?

**2020年**から**大学入試制度**が  
**ガラッと変わります!**  
今の**中学3年生**から変わるので!

大学入試改革、なぜ「待ったなし」なのか?

中央教育審議会が示した、日本の現状

生産年齢人口の急減、  
労働生産性の低迷、  
グローバル化・多極化  
...など

大人が予想しているよりも、はるかに早い世の中の流れ

新たな時代を見据えた  
教育改革が「待ったなし」

これまでと同じ教育を続けているだけでは、  
これからの時代に通用する力を子供たちが育むことはできない

#### 大学入試改革6つのポイント

- Point1 センター試験が廃止され、2つの「**新テスト**」が創設される。
- Point2 「**大学入学希望者学力評価テスト**」は、複数回受験が可能。CBTも導入。
- Point3 大学入学希望者学力評価テストは、「**教科**」の枠組みが変わる。
- Point4 大学の「**個別選抜**」も変わる。
- Point5 推薦・AO入試が**廃止**。
- Point6 遅くとも、**1年後**から対応を求められる。

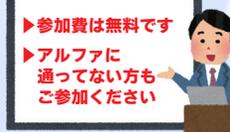
### アルファ「保護者セミナー」10/28(土)開催

テーマ 「英語教育改革と大学入試改革」

日時 10月28日(土) 午後7:00~8:30

会場 魚津市「新川文化ホール」104会議室

定員 先着80名様 ※席に限りがありますのでお早めにお申し込みください



# 英検

## 2017年度第2回英語検定

2020年から始まる英語教育改革に向けて

小学生のうちに

英検5級の合格をめざそう!

# 10/7(土)

アルファ桜井校・石田校にて受付中

後援：文部科学省



お申込  
締め切り

# 9/8(金)

5級 4級 3級 準2級 2級

知ってた?  
コーナー

社会  
編

## 資源小国

日本に、海外へ輸出できる資源が存在するご存知ですか?  
それは沃素(ようそ)です。  
そう、あの「ヨウ素液」の沃素です。  
なんと世界生産量の40%は日本が占めているそうです!



2020年度から大学入試が変わり、英語では「読み」「書き」「聞く」「話す」の4技能が求められるように!

◆自分のペースで好きなだけがんばることができる◆個別指導型

Welcome to

# 子ども英語教室

レプトン

# Lepton



## 4技能をバランスよく習得する 独自の学習法

1回60分の授業に、無料ご招待!

## 夏の無料体験会

桜井校 ☎(0765) 54-4557  
石田校 ☎(0765) 54-4884

まずはお電話で  
ご予約ください

## 今月のおはなし

### 95年の時を経てつながった二つの物語



イランとイラクが戦争をしていたとき、イラン在住の日本人を国外へ輸送したのはJALではなく、トルコ航空機でした。

そのトルコ政府の英断には、95年前の出来事が関係しています。いずれも感動的なエピソードです。しかし、もう一つ感動的な真実があります。

イランに戦争を仕掛けたイラクが「48時間後以降、イラン上空を飛行するすべての航空機を攻撃する」と通告したのは、戦況が激化し、外国人の国外退避が始まっていた1985年3月のことでした。

イランには約450人の日本人がいました。日本大使館の野村豊氏は、外務省を通じて日本航空に救援機の要請をしていました。当時の法律では戦争をしている地域に自衛隊機を派遣することができなかったのです。しかし、日本航空は「安全な飛行が保障されない」との理由で断ってききました。

世界各国の救援機が続々とイランの空港に到着しました。どの国も自国民の救出を優先しました。日本人は空席を待つしかありませんでした。3席、5席とわずかの座席をもらいながら約200人が国外へ脱出しました。それでも215人が残されました。

「もう時間がない。万策尽きた」と野村大使は思いました。そのとき、日頃から親しくしていたイラン駐在のトルコ大使を思い出し、電話を掛けました。

「貴国も自国民を救うために救援機を飛ばしていることを私は知っている。それでも無理を承知でお願いします。日本人のためにもう一機飛ばしてくださいませんか」トルコ大使はこの無謀な要求を本国のオザル首相に伝えました。

そのとき、オザル首相は伊藤忠商事の森永堯(たかし)氏から同じ要請を受けていました。

森永氏はその10年前、不況にあえぐトルコに商社マンとして赴任し、彼の会社はトルコの農業復興に多大な功績を上げていました。当時、経営コンサルタントとして国の経済再建に奔走していたオザル氏は、森永氏から多くのことを学び、2人の間には友情が芽生えていました。

オザル首相は2人の日本人からの要請を受け入れ、救援機を飛ばす決断をしました。そのとき、首相は森永氏にこう言いました。

「我々はあなた方日本人に恩返しをしなければなりませんから」

首相が言った「恩」とは、1890年(明治23年)、トルコの軍艦・エルトゥールル号が和歌山県沖で座礁・沈没した際に、海岸に辿り着いた乗組員に対する地元住民の献身的な救助活動のことでした。

事故は深夜に起きました。618人の乗組員が海に投げ出され、海岸に辿り着いたのは69人。そこは崖下でした。

嵐の中、村人たちは崖下から一人ひとり戸板に括り付けて運び上げました。救助は夜を徹して行われました。

村人は生き残った69人を手厚くもてなしました。貧しい村でしたが、非常食用の甘藷も、鶏も、彼らのために提供しました。

情報手段が新聞しかなかった時代にもかかわらず、3日目には日本全土で募金運動が起こり、予想を上回る義援金が集まり、そして4日目、彼らをトルコまで送り届けるべく日本の船が出港したのです。

95年の時を経て繋がったこの二つの物語は2015年に映画化されました。タイトルは『海難1890』。冒頭で「もう一つの感動的な真実」です。

トルコ政府が飛ばした救援機はなんと日本人を優先したのです。そのため飛行機に乗れなかった約500人のトルコ人は陸路自動車でイランを脱出し、トルコまで3日かかりました。驚くべきことはそのことに対するオザル首相への非難・批判が一切なかったのです。

トルコの教科書には、12年前に日本で起こった海難事故のことが載っています。全国民が知っているのです。教育の力です。

教育が、国境と時空を超えて世界平和の礎になることを、教育によって、人に優しくなれることを、この出来事は教えてくれます。